

4. 経営学部・経営学研究科・国際経営研究所

【現状説明】

本学部は、31万㎡の広さを持つ緑豊かな湘南ひらつかキャンパス（以下、SHCと称す。）に立地している。経営学部での教育研究は、主としてSHCの1号館、6号館および体育館（3号館）とその附属施設を使用している。

1号館には中教室が12室、250～450人収容の大教室が3室ある。この他に、24人定員の演習室が8室（大学院演習室含む）、LL教室3室、AV教室1室、そしてコンピュータ（PC）教室とPC演習室が4室ある。

6号館には、80～180人定員の中教室が13室、300人以上収容の大教室が2室、さらに定員16～30人の演習室が8室ある。1号館および6号館はともに理学部との共用となっている。AV室、LL教室はもとより、殆どの教室および演習室にモニターテレビ、ビデオデッキなどの教育用AV機器が設置されている。

情報教育のためのコンピュータ教室および演習室の現況は、授業用PC教室が65人定員で3室と、少人数授業用及び演習用PC教室が40人定員で1室、加えてパソコン20台設置の自習用PC教室が7号館に1室となっている。情報教育の充実は、どの大学どの学部でも重要な教育目標となっているが、それを実現するためのインフラ整備という点では本学は厳しい状況にあると言える。経営学部が設置されているSHCにおけるPC環境は、横浜キャンパスのそれより良好な条件下にあるとは言え、学生や教員の利用増大に現状では十分対応できていないとは言えない。

しかも、経営学部においても、今後パソコン利用の教育研究需要が拡大する傾向にあり、さらに文部科学省が教育現場におけるe-Learningの導入を奨励していることもあって、SHCにおける情報教育環境は一層整備されなければならない。

他方、学生の身体の健全な成長支援にとって重要な機能を果たす体育館とその関連施設については、SHCにおける整備状況はかなり満足できるレベルにあると評価できる。体育館内の諸施設に加えて、屋外には野球場、サッカー兼ラグビー場、陸上競技場、テニスコート、50mプール、ゴルフ練習場が整備されている。これらの体育施設は、競技団体や地域社会など学外の利用にも広く供されている。

SHCには、駅より遠隔地に立地している不利性を緩和するために、1,000台収容の駐車場が用意されている。この点は、SHCに通学する経営学部及び理学部の学生にとって、大きなメリットとなっている。なお、バスで通学する学生には、定期券代の2分の1を大学が補助する制度を導入している。また、バス利用の高い時間帯には利用者の不便を緩和するために、大学側の負担で必要な増便を手当している。

【点検・評価】

SHCの施設・設備に関しては、経営学部・理学部・両大学院を合わせて3,500人以上の学生・大学院生が利用するには、全体として不十分と言わざるを得ない。講義用の教室や演習室は、開講コマ数の多さに比べて不足しており、時間割編成上の厳しい調整が続いている。

一方、教室や演習室に設置されているモニターテレビ、ビデオデッキ、OHPなどの教育用AV機器は、概して授業やゼミナールでの利用需要にかなりの程度対応できるようになっており、学生の満足度も高くなっている。しかしながら、経営学部の情報教育や教員の教育目的での利用増大に伴って、コンピュータ教室及び演習室並びにパソコン台数については、現状では十分とは言えない。SHCにおけるPC環境の今後の改善が求められている。

次に、平塚図書室については、閲覧・学習スペース並びに書庫スペースが狭隘であり、学期終了から学期末試験期間に学生の利用がピークを迎えるが、スペース面で十分に対応

できているとは言えない。具体的には、収納スペースの不足から蔵書の一部は倉庫に別置保管され、閲覧サービスにも支障をきたしている。SHCの図書室利用サービスの拡大が依然として求められている。

他方、体育館（3号館）及びその関連施設については、横浜キャンパスに比べて一段と整備されていると評価できる。経営学部では健康科学やスポーツ競技関連の授業や演習での利用のみならず、スポーツ&マネジメントコースの学生を中心として課外での体育会活動やサークル活動にも有効に利用されている。

しかしながら、競技スポーツの演習や雨天時の健康科学関連の授業、さらには体育系課外活動のミーティングなどの利用に供される施設の整備が関係教員や利用学生から望まれており、今後の課題となっている。

一方、大学院経営学研究科の「演習」や「特講」は、主として1号館の2演習室を利用している。また、大学院生の共同研究室は定員の29名（含む後期課程）に対応できる施設・設備を設置している。これは他学部に比べて良好な環境にあると評価される。また、国際経営研究所については、狭隘なスペースの中で多くの事業を行っており、改善が望まれるとともに、6号館にある資料室の有効な活用が求められる。

なお、経営学部の専任教員の個人研究室については、定員の54名に対して現在は50室が用意されている。そのために、経営学部の人事計画において教員充足率が100%に達する予定の2010年4月には、3研究室不足することとなる。現在の教員研究室は、教員の個人研究のためのみに利用されるだけでなく、少人数のゼミ指導やオフィス・アワーの設定などによる学生面談、さらには大学院生の研究に貸し出す図書・文献の保存など多目的に利用されている。従って、研究室の不足分については、今後年次計画で整備する必要がある。

【改善方策】

SHCにおける教育研究上の施設・設備の現状と問題点を点検し、今後の改善の方策を探れば次の6点が明らかとなった。

第一に、大学創立80周年記念事業として建設される新棟（11号館）が、2009年度の後期より使用可能となる見通しであり、それによってPC教室・演習室の整備が大幅に実現するので、その有効な教育的活用を図ることとする。

第二に、1号館の改修による学生ラウンジの整備によって学生の休憩・交流などの空間が確保され、学生のキャンパス・ライフ支援サービスが拡充するため、在学生にとっての活用のみならず、受験生にとってのSHCの魅力の1つになることが期待できる。

第三に、図書室については書庫や閲覧スペースが改善されるため、書庫内に視聴覚機器の機能を備えたグループ学習室や多目的セミナー室を設けることで、図書室の機能が一段と高まり、それに伴って学生の図書室利用が活発になるように指導することとする。

第四に、体育館関連施設については、①雨天時の健康科学授業のための教室、②競技スポーツ関連の演習室、および③体育系課外活動のミーティングルームなどに利用するため体育館内もしくは館外隣接に少人数教室の増設について、大学全体として検討を要する。

第五には、専任教員の研究室の整備については、2008年度策定のSHC整備計画の中で、2010年3月末までに不足分の3研究室の設置を行うこととしてある。また、既存研究室の充実・改良もしくは利用改善については、学部予算の重点配分によって2009～2010年度の2年間で実現する。

第六には、国際経営研究所の施設については、新棟の建設に伴う1号館の再整備の事業の中で、可能な限り施設・設備の改善に努めることとする。